備前櫛盃一代記

全

へ13
2946
129

備前播磨盆一代記

播盆一代記自叙

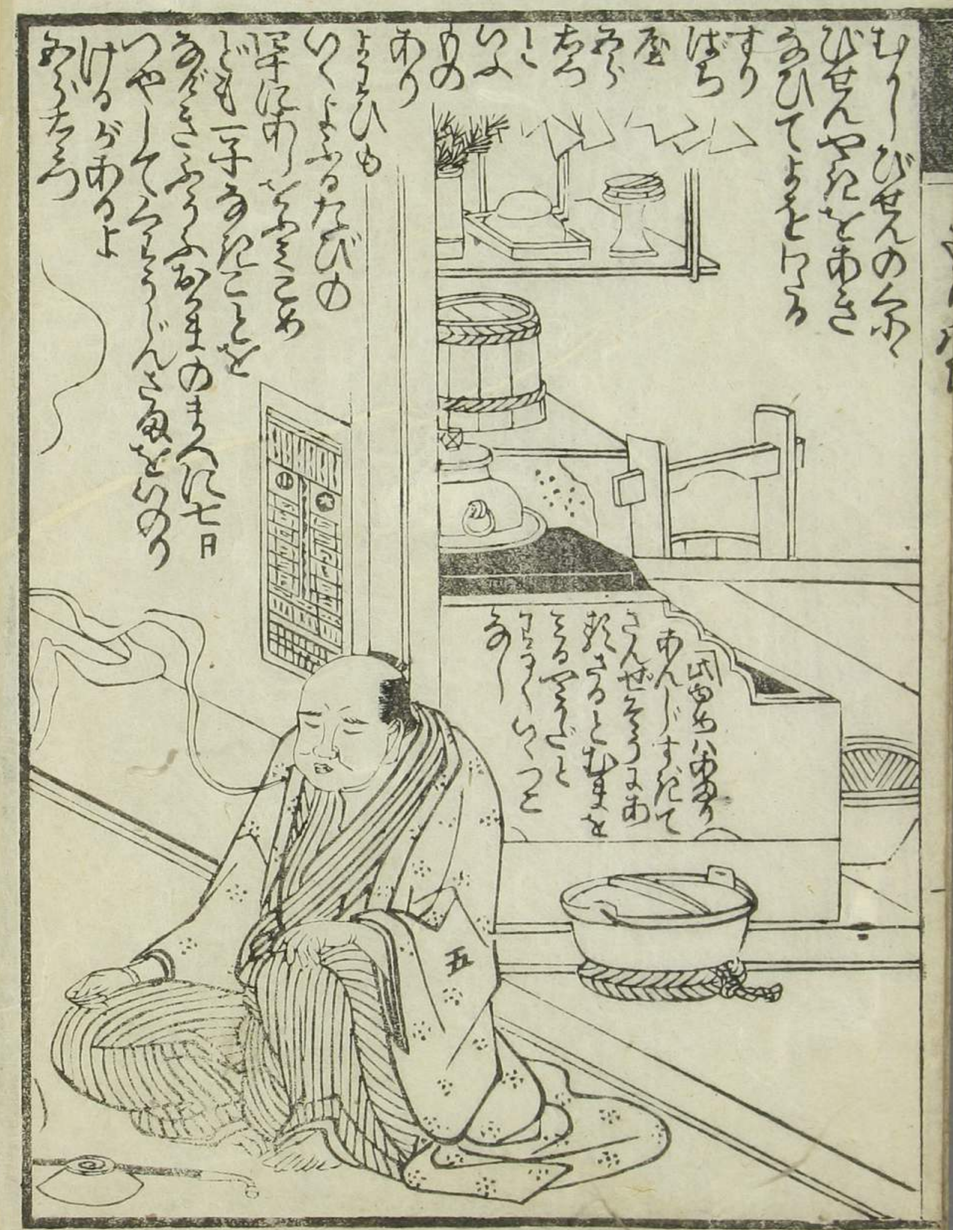
聞書集

昌ハ云大極両儀を生じ両儀陰陽を生じ陽廻
夫婦とかゝる夫婦播盆剛槌とかゝる品を以て夫ハ山椒の米ハ
かゝき世を務婦ハ備前焼のすきまを結ぶ武江乃繁
栄百万戸日こゝ小指木孤冷食よりのそもそも何百丈そ夕乃
騒朝の汁甚邦も味噌を揚だちぐろくぐらつく
ひろもろさ陸しべるゝ雷ゝで西云となる雨となる。
妹脊ハ似る播槌を。ゝね筆を敲ハて鍋のす
ゝ揚ハ亀のまゝ笑ひぐめに序をとるとゝ。

寛政十二庚申孟春

曲亭馬琴誌

へ13
2946
129



「うちんもの」
土

このもちぐちのうれるようすもきいるのゝはしのせとものやよりもちぐちの
ずかゝて三万三千
三百三十のたちうれ
きゝうれいかの十六
れんこせのすゝふう
つりれいゝ巳もち
ぐちもたちまち
かるゝ花ふつゝこ
まれいたのえゝ
ゝうぐいもる

このもちぐちと
ゝるぐさいで
ぎれふかゝんもちゝ
ぐとゝいゝれるぐゝう

ゝゝるせと
ものゝて
ゝてゝこらせ
かゝゝるまいで
なきやあぐれ
のゝうのさせう
ぶんぢや
あゝめゝ
このもちぐちのうれるようすもきいるのゝはしのせとものやよりもちぐちの
ずかゝて三万三千
三百三十のたちうれ
きゝうれいかの十六
れんこせのすゝふう
つりれいゝ巳もち
ぐちもたちまち
かるゝ花ふつゝこ
まれいたのえゝ
ゝうぐいもる
ゝン
ゝる

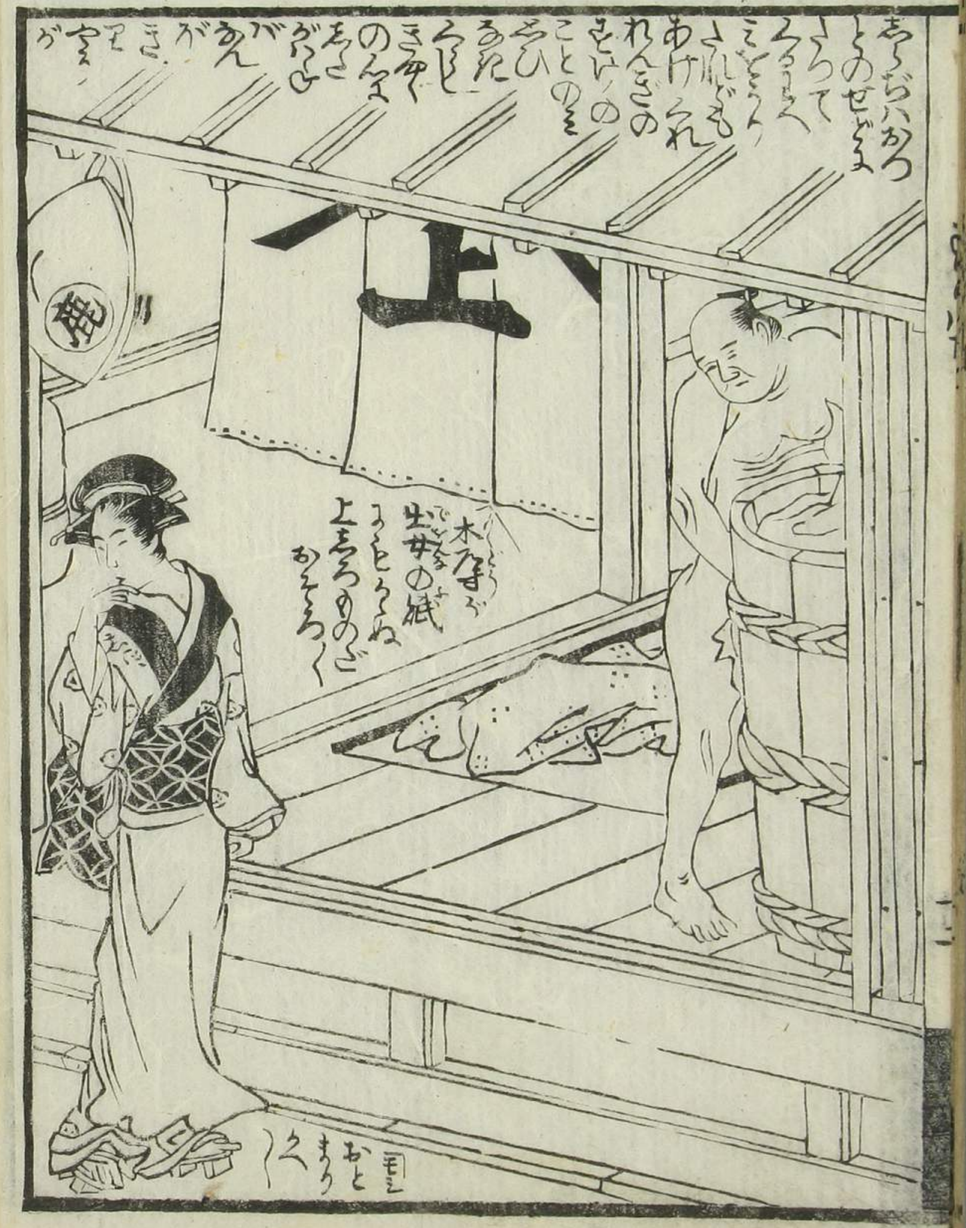
連
湯島会夜書
勝夢
遊幸明朝唐
新楽

運

連

「こちの人
「こりゃどをあいてるかふりゃやぜん
連

「うこの〻れとおろしてやんのあれぐいぢやアあるまいせる



〈化競丑満鎮

曲亭馬琴作